



子育てサポート企業
次世代認定マーク

監査法人初となる次世代認定マーク「くるみん」を取得（2013年7月）
法で定められた内容を上回る育児休業制度の整備や次世代育成支援、ワークライフマネジメント促進に向けた社内啓蒙活動等を積極的に行ったことから、子育てサポート企業として厚生労働省により認められ、2013年7月17日付で監査法人で初となる次世代認定マーク「くるみん」の取得に至りました。その後も2年間の実績を踏まえ、2015年8月に連続認定を受けたため、同年よりくるみんマークの星が2つに増えました。

有限責任監査法人 トーマツ

〒108-6221 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティ C棟

説明書類および本誌は、Webページでもご覧いただけます。

www.deloitte.com/jp

デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ 税理士法人およびDT弁護士法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー等を提供しています。また、国内約40都市に約8,500名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループWebサイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザーサービス、リスクマネジメント、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを提供しています。デロイトの約220,000名を超える人材は、“making an impact that matters”を自らの使命としています。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。DTTLおよびそのメンバーファームについての詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的事案をもとに適切な専門家に相談ください。

デロイト トーマツ グループ CEOメッセージ 2020年を見据えたスタートの年に



2015年は15年ぶりに日経平均が一時2万円を超え、新規上場は年間100社に迫るなど明るいニュースが多かったものの世界に目を向けると、原油安の長期化や新興国の成長鈍化、とりわけ中国経済の減速が鮮明になり日本経済への影響が懸念される状況は続いていることから、日本経済は依然緩やかな回復基調にとどまっています。

そのような環境下、10月には5年以上に及んだ交渉の末TPPが大筋合意し、参加国のGDPが世界のGDPの4割近くを占める広大な経済圏が生まれる見通しが立ちました。経済のボーダレス化により日本企業はさらにグローバルマーケットを視野に入れ、未来を自らの手で切り拓くことを求められることとなります。

日本企業を取り巻く環境が大きく変化し、各企業が直面する課題や

問題はより高度に、より複雑になっています。私たちデロイト トーマツ グループは、総合プロフェッショナルファームとして日本企業の成長に貢献し、グローバルベースの重要課題に共に挑戦することが求められていると認識しています。そのために2015年、グループの総合力をさらに高めることを目的として新しい組織の枠組みを構築し、デロイト トーマツ 合同会社を中心とする4つのコアビジネスによるグループ経営の取り組みを本格的に開始いたしました。監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務のそれぞれが専門性を高め、シナジーを発揮するとともに、全世界150を超える国・地域に及ぶデロイトのネットワークを活用することで、複合的で難易度の高い課題に取り組む日本企業に貢献いたします。

また2015年は、デロイト トーマツ グループにとっては2010年に策定したAs One中期経営計画の目標を達成した年でもありました。私たちは目標を達成したことはゴールではなく通過点として捉え、2016年から始まる次の5年間に向けた新たな一歩を踏み出しています。

2016年は私たちのコア業務である監査業務において、資本市場の信頼性確保に大きな期待が寄せられていることを強く再認識し、徹底した「品質最重視」で臨んでまいります。コンサルティング業務においては、デロイト トーマツ コンサルティングが「100年先に続くバリューを日本から」をスローガンに据え、日本企業が長期にグローバルで成長するための新しい枠組み作りの創造にさらに取り組んでまいります。また、依然拡大する日本企業の海外進出支援として、海外現地のメンバーファームとのコラボレーションを強化していきます。そして活発化するM&Aやフォレンジックビジネス等を中心とするファイナンシャルアドバイザー業務は、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザーが特にクライシスの領域においてサービスの幅、人員数を急速に拡充し大きな成長を遂げています。さらに、組織をインダストリーを軸にしたユニットへと再編し、クライアントフォーカスの徹底を進めていきます。税務では、デロイト トーマツ 税理士法人が特にBEPSへの対応を含め国際税務への対応を強化しています。さらに、DT弁護士法人が新たに加わったことを踏まえ、Tax&Legalとして高いシナジー効果をもつサービス提供を実現しています。

デロイト トーマツ グループはグローバルでPurposeを定め、“Deloitte makes an impact that matters”を自らの指針としています。クライアント、人材、そして社会に向けてImpactを与えることができるよう、多様な専門家の深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを提供します。

デロイト トーマツ グループは2020年を見据え、2016年も精進してまいります。

小 川 陽 一 郎

有限責任監査法人 トーマツ 包括代表メッセージ トーマツの品質を社会・資本市場の価値に

2015年11月1日、新たに有限責任監査法人トーマツ 包括代表に就任いたしました。新たな体制の下、トーマツの品質が社会・資本市場にとって価値となるよう全力で取り組んでまいります。

2015年を振り返りますと、上場企業等における不適切会計を含めたコンプライアンス違反が数多く報道されました。その流れの中で会計監査についても厳しい視線が寄せられ、監査および監査法人に対する社会からの期待の高まりを再認識しております。会計および監査は資本市場における重要なインフラであり、会計および監査の専門家集団である監査法人は資本市場における公共財です。求められる社会的使命を果たしていくためには、高い倫理・コンプライアンスを尊重する健全な企業文化・風土が必要と考えます。そのような高い意識を醸成していくため、私たちはさらに取り組みを進め、私自身の言葉と行動で規範を示し、プロフェッショナル全員の行動で示すことをお約束します。そしてトーマツは、監査において、品質を最も重視した業務遂行を行い、企業の投資家に対する適切な財務報告責任や内部統制・ガバナンス向上に貢献し、資本市場の信頼性確保とその健全な発展に寄与してまいります。

また、監査業務で培った知見と専門性を駆使し、監査の品質を側面からサポートし、クライアントの企業価値の向上と持続的成長に貢献するため幅広いアドバイザー業務を提供しています。IFRS(国際財務報告基準)の任意適用済みおよび適用予定企業は100社に迫っていますが、トーマツは適用に向けた会計関連アドバイザー等において実績を重ねています。日本版ステewardシップコードの導入や、企業に求められる行動規範であるコーポレートガバナンス・コードの適用が開始され、コーポレートガバナンスへの企業の意識は高まっており、トーマツは日本企業の抱える課題に正面から向き合っていきます。

一方で、公認会計士を目指す若者が近年減少しています。2015年は受験者数、合格者数ともに新試験制度導入以降、過去最低を更新し、千人余りの合格者にとどまりました。優秀な人材を確保し、適切に教育することは、監査の品質に直結する問題です。他方で、会計士の活躍の場は広がっています。IFRS導入支援や内部統制においてその専門性を発揮するのはもちろんのこと、事業の成長戦略を推進するために、会計・財務の知見、クライアントのビジネスへの高い理解をベースに、日本企業の成長を支援しています。監査法人業界のリーディングファームとして会計士の魅力を十分に伝えきれていないことを自省しつつ、若い人材にとって魅力あるプロフェッションであるとの理解を広めるための取り組みを進めていかねばならないと強く感じています。

「経済社会の公正を守り率先してその発展に貢献する」「クライアントの期待を超える知的サービスを総合的に提供する」「各人の個性を尊重し能力を発揮できる生きがいのある場を創り出す」という経営理念に改めて立ち返り、最も信頼されるリーディングファームを目指してまいります。

梶 恒 平

目次

- 1 ご挨拶
- 3 目次
- 4 デロイト トーマツ グループの理念
- 5 有限責任監査法人 トーマツについて
 - <法人概要>
 - <財務状況>
 - <ガバナンス>
- 9 品質管理に対する取り組み
- 11 高品質な会計監査の実施
- 13 「資本市場の健全な発展」に応えるグローバルなアドバイザー
- 15 企業や社会から求められる「人材の育成」
- 19 東日本大震災の復興支援は岩手・宮城・福島に事務所を構える唯一の監査法人として当然の使命
- 21 デロイト トーマツ グループのCSR活動
- 23 デロイト トーマツ グループについて
 - <サービス>
 - <インダストリー>
 - <ネットワーク>
- 27 総合力を生かしたサービス
- 29 デロイト トーマツ グループ業績
- 30 デロイトとは

デロイト トーマツ グループの理念

私たちは常に、デロイト トーマツ グループの経営理念およびデロイトが世界のメンバーファームの指針として提示する“Deloitte network Purpose”に即した行動を心掛けます。

Deloitte network Purpose

Deloitte makes an impact that matters.

クライアントのため、メンバーのため、そして社会のため、私たちは常に最も重要な課題に挑戦し続ける。複雑な課題を解決し、クライアントの持続的な成長を促し、卓越した総合力を背景に、圧倒的な価値をもたらす。私たちは誠実であることを掲げ、信頼と信用を築き、社会に貢献していく。共通の価値観が、私たちを発展的で揺るぎないインパクトの創造へと導く。

デロイト トーマツ グループ 経営理念

Fairness to society

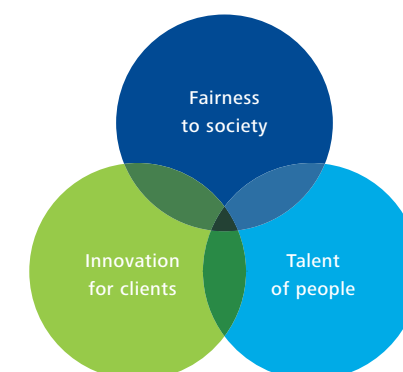
経済社会の公正を守り率先してその発展に貢献する
プロフェッショナルファームとして独立性を保持し、グローバルな視野に立って与えられた責任と役割を誠実に果たす。

Innovation for clients

クライアントの期待を超える知的専門サービスを総合的に提供する
多様化するニーズに応えるため、総合力を発揮できる組織を構築し、創造的で先見性に富んだサービスを提供する。

Talent of people

各人の個性を尊重し能力を発揮できる生きがいのある場を創り出す
プロフェッショナルとして自らを鍛え、磨き、チームワークを守る一人ひとりが、生きがいを手にし、豊かな生活を実現する。



有限責任監査法人 トーマツについて

<法人概要>

有限責任監査法人トーマツは、日本初の全国規模の監査法人として1968年に設立されました。現在は、監査、株式公開支援、企業の財務戦略を支援するための財務調査、デューデリジェンス、内部管理体制構築支援のためのシステム監査等を提供する日本で最大級の会計事務所のひとつです。国内約40都市に約3,200名の公認会計士を含む約5,700名の専門家を擁し、経済社会の健全な発展のために、日本全国でさまざまな業種の多国籍企業および日本企業等にサービスを提供しています。

国内事務所所在地

主たる事務所 東京都港区港南二丁目15番3号 品川インターシティ

その他の事務所 札幌、仙台、盛岡、福島*、新潟、さいたま、高崎*、千葉、横浜、長野、松本*、金沢、福井*、富山、静岡、浜松*、名古屋、岐阜、三重、京都、大阪、滋賀*、奈良、和歌山、神戸、岡山、広島、松江、高松、松山、北九州*、福岡、大分、熊本、長崎*、宮崎*、鹿児島、那覇

* 連絡事務所

資本金 898百万円(2015年9月末日現在)

沿革

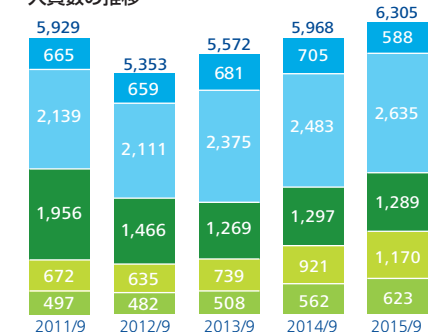
- 1968年 5月 等松・青木監査法人設立
- 1975年 5月 トウシュ ロス インターナショナル(TRI)へ加盟
- 1986年 10月 名称を「サンワ・等松青木監査法人」に変更
- 1990年 2月 デロイト ハスキングス アンド セルズ インターナショナルとトウシュ ロス インターナショナルが合併。国際名称を「デロイト ロス トーマツ インターナショナル(現 デロイトトウシュトーマツ リミテッド(DTTL))」*に変更
名称を「監査法人トーマツ」に変更
- 2009年 7月 有限責任監査法人へ移行し、名称を「有限責任監査法人トーマツ」に変更

*各国のプロフェッショナル・ファームをメンバーとする英国の法令に基づく保証有限責任会社です。

人員数 (2015年9月末現在)

| | | |
|----|-------------|--------|
| 社員 | 公認会計士 | 544 |
| | 特定社員 | 44 |
| 職員 | 公認会計士 | 2,635 |
| | 公認会計士試験合格者等 | 1,289 |
| | その他専門職員 | 1,170 |
| | 事務職員 | 623 |
| 合計 | | 6,305名 |

人員数の推移



■ 社員*
■ 公認会計士 (職員)
■ 公認会計士試験合格者等 (会計士補を含む)
■ その他専門職員*
■ 事務職員

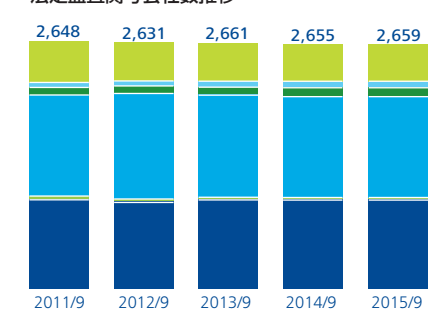
(注) *1 グループ会社のパートナー兼務者を含む
*2 論文試験科目合格者および短答式試験合格者を含む

監査証明業務

監査関与会社数 3,574社 (2015年9月末現在)

| | |
|-----------|-------|
| 金商法・会社法監査 | 959 |
| 金商法監査 | 12 |
| 会社法監査 | 1,100 |
| 学校法人監査 | 83 |
| 労働組合監査 | 64 |
| その他の法定監査 | 441 |
| 法定合計 | 2,659 |
| その他の任意監査 | 915 |
| 総計 | 3,574 |

法定監査関与会社数推移



非監査証明業務

非監査関与会社数 3,526社 (2014年10月~2015年9月)

トーマツは経済社会およびクライアントの多様なニーズに応えるため、株式公開支援、企業の財務調査、デューデリジェンス、内部管理体制構築支援のためのシステム監査等、幅広い財務関連サービスの提供に努めております。

<財務状況>

当期(2014年10月1日~2015年9月30日)のトーマツの決算につきましては、次のとおりです。
 なお、記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

要約貸借対照表

2015年9月30日現在

(単位:百万円)

| (資産の部) | | (負債の部) | |
|---------------|---------------|------------------|---------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 【流動資産】 | 37,442 | 【流動負債】 | 17,519 |
| 現金及び預金 | 18,860 | 未払金 | 5,535 |
| 業務未収入金 | 13,318 | 前受金 | 4,434 |
| 前払費用 | 1,565 | 短期借入金 | 100 |
| 繰延税金資産 | 1,420 | 未払法人税等 | 260 |
| その他 | 2,301 | 預り金 | 2,445 |
| 貸倒引当金 | △24 | 賞与引当金 | 1,475 |
| 【固定資産】 | 12,656 | その他 | 3,267 |
| 有形固定資産 | 2,030 | 【固定負債】 | 8,667 |
| 無形固定資産 | 126 | 預り保証金 | 2,078 |
| 投資その他の資産 | 10,499 | 退職給付引当金 | 4,983 |
| 関係会社株式 | 424 | その他 | 1,605 |
| 出資金 | 743 | 負債合計 | 26,186 |
| 長期未収入金 | 1,673 | (純資産の部) | |
| 敷金及び保証金 | 5,729 | 【社員資本】 | 23,912 |
| 保険積立金 | 18 | 資本金 | 898 |
| 繰延税金資産 | 1,571 | 資本剰余金 | 2,655 |
| その他 | 381 | 利益剰余金 | 20,359 |
| 貸倒引当金 | △42 | 純資産合計 | 23,912 |
| 資産合計 | 50,099 | 負債及び純資産合計 | 50,099 |

要約損益計算書

自 2014年10月1日
 至 2015年9月30日

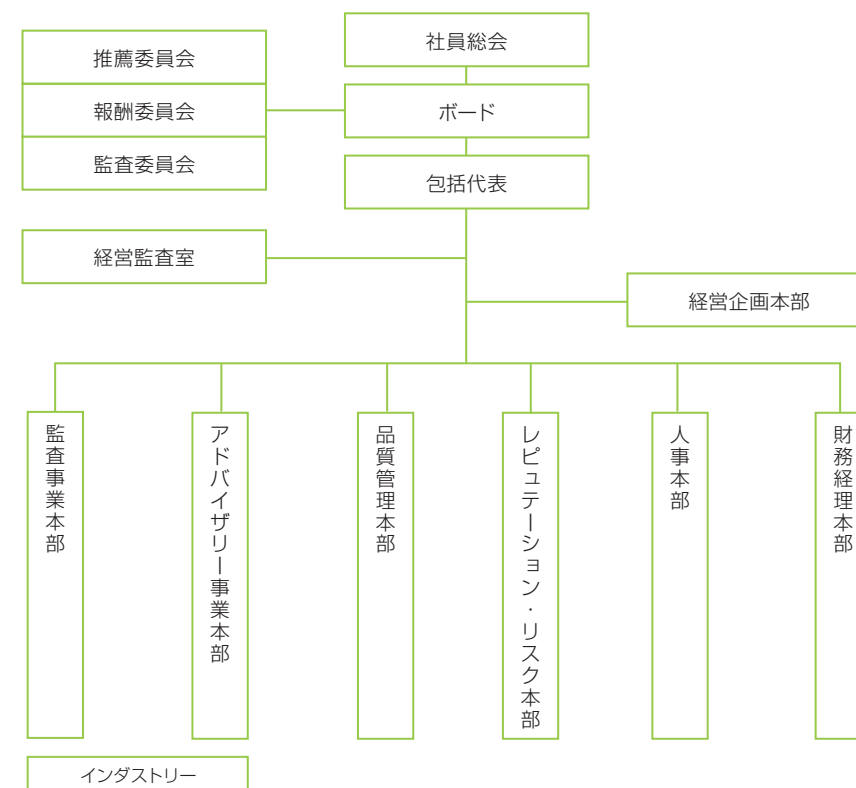
(単位:百万円)

| 科目 | 金額 |
|-----------------|---------------|
| 業務収入 | 89,177 |
| 業務費用 | |
| 人件費 | 66,960 |
| 人材開発費用 | 1,952 |
| ファシリティ費用 | 5,389 |
| 情報システム及び通信費 | 2,329 |
| その他業務費用 | 11,731 |
| 営業利益 | 814 |
| 営業外収益 | 1,160 |
| 営業外費用 | 21 |
| 経常利益 | 1,954 |
| 特別利益 | 796 |
| 特別損失 | 12 |
| 税引前当期純利益 | 2,737 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 698 |
| 法人税等調整額 | 430 |
| 当期純利益 | 1,608 |

<ガバナンス>

トーマツは、社員総会を最高意思決定機関とし、迅速かつ適切な意思決定を容易にするため、経営意思決定機関としてボードを設置しています。ボードは、法人経営に関する重要事項を決定又は承認し、包括代表等の経営執行機関の活動を監督しています。ボードは、ボード議長、包括代表、評議員及び執行役で構成され、経営意思決定に基づく執行を行わない評議員がその3分の2以上を占めることでガバナンスの強化を図っています。また、ボード内には推薦・報酬・監査の各委員会を設置しています。ボードメンバーの選出は、包括代表等に関する選出規程に基づき、推薦委員会が候補者を推薦し、社員による信任投票を経て選任しています。経営執行は、トーマツの最高経営責任者として包括代表が行い、包括代表に指名された執行役が各所管の業務執行を担当しています。包括代表および執行役の業務執行は、監査委員会が監督し、さらに、包括代表直轄の経営監査室が内部監査を実施しています。

組織図 (2015年12月現在)



品質管理に対する取り組み

デロイト トーマツ グループは経営理念として「経済社会の公正を守り率先してその発展に貢献する」、「クライアントの期待を超える知的専門サービスを総合的に提供する」、「各人の個性を尊重し能力を発揮できる生きがいのある場を創り出す」を掲げ、常に品質を重視した業務運営をすることで、最も信頼されるプロフェッショナルファームを目指しています。

品質管理体制

トーマツのコア業務である監査業務は高度に社会性を帯びた業務です。その業務を適正に行うために、トーマツの品質管理体制に関する最終的責任を負っている包括代表の指揮のもと、契約の締結から監査報告書の発行に至る監査の全プロセスにおいて品質管理の方針、手続を整備し、運用しています(参照:右図)。企業会計審議会の「監査に関する品質管理基準」に準拠するとともに、全世界のデロイトメンバーファームが遵守すべき基本的な方針やルールを定めたDPM(Deloitte Policies Manual)に沿ったマニュアル等に基づき、全世界共通の高品質な監査業務の提供を実施しています。

なお、監査業務以外(含むコンサルティング)の業務についても、上記DPMに基づいたマニュアル等を策定・運用し、高品質なサービスを提供しています。

コンプライアンス(独立性・職業倫理の確保、インサイダー取引防止、情報管理等)

コンプライアンスガイドラインを整備し、「覚えるコンプライアンス」ではなく「考えるコンプライアンス」の浸透を図っています。また、外部からの通報も可能なコンプライアンス・ホットライン(トーマツ内および顧問弁護士事務所の専用回線)を設置し、コンプライアンス違反の早期発見と防止に努めています。

独立性・職業倫理の確保

トーマツでは、公認会計士法、日本公認会計士協会会則および倫理規則等の職業規範等を念頭に置き、職業的専門家としての誇りを常に持って職務を行うことを徹底しています。独立性・職業倫理の確保に向けての取り組みに際して責任を負う、レピュテーション・リスク・リーダー(RRL)の所管のもと、独立性については、株式等の保有に関するモニタリングシステムへの登録や、独立性に関する内部検査、年次確認といった手続を実施し、その確保を図っています。さらに包括代表は、独立性を含む職業倫理の遵守の重要性を強調するメッセージを定期的に発信しています。

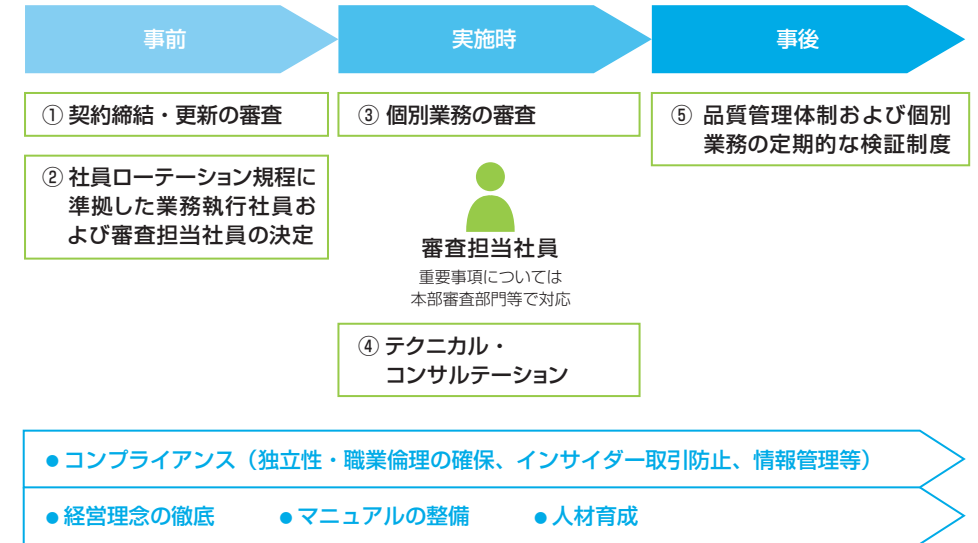
インサイダー取引防止

「インサイダー取引防止規程」を制定し、研修等を通じてインサイダー取引防止の周知徹底を図り、さらに包括代表から、社員および職員に対し注意喚起を行っています。

情報管理

トーマツは、各関与先からお預かりしている情報の大切さを十分に認識し、社員および職員に対する情報保護の教育や研修などを通して、情報の適正な管理を徹底しています。さらに、VDI(仮想デスクトップ)の導入により情報保護を更に強固なものとしています。

監査業務の品質管理体制



① 契約締結・更新の審査

所定の規程に従い、監査リスクを評価し、独立性および利害関係に問題ないことを確認した上で契約を締結しています。

② 社員ローテーション規程に準拠した業務執行社員および審査担当社員の決定

公認会計士法等に準拠する内部規程を定め、業務の専門性を勘案して決定しています。

③ 個別業務の審査

監査を含めた全ての意見表明業務に審査担当社員を指名し、業務に直接関与するメンバーとは独立した立場から客観的な視点で業務に係わる審査を行うことにより、品質の確保に努めています。加えて、特に重要な事項については品質管理本部内の監査ERS審査室等にて対応しています。

④ テクニカル・コンサルテーション

会計・監査上の諸問題のための品質管理本部内のテクニカルセンターおよび監査ERS審査室(相談窓口)やデロイトのグローバルネットワークを活用しています。

⑤ 品質管理体制および個別業務の定期的な検証制度

デロイトの指揮の下で、毎年、各メンバーファームの品質管理体制や個別監査業務等がDPM等に準拠して整備・運用されているかについての定期的な検証が実施されています。

高品質な会計監査の実施

トーマツは高品質な会計監査の実施を通じて、企業の投資家に対する適切な財務報告責任の遂行やガバナンス向上に貢献し、資本市場の健全な発展に寄与いたします。

ビジネスの深い理解に基づく高品質な会計監査を実施するため、トーマツは各関与先とのタイムリーで率直なコミュニケーションを重視し、監査の過程で識別された課題は適時に関与先と協議し、企業価値を最大化するための改善提案を行います。

グローバル監査責任者(リード・クライアント・サービス・パートナー:LCSP)による統合された監査業務実施体制

各企業の直面する経営環境の変化やビジネス上の課題を踏まえた的確な会計監査を遂行するために、デロイトではグローバル監査チームのLCSPの指揮の下、国やファンクションを超えたチームレスな業務提供を行うチーム体制を構築する制度があります。これにより、監査チームはデロイトおよびデロイトトーマツグループのインダストリーの知見やグローバルネットワークを最大限活用し、企業の財務報告やガバナンス等に関する課題に対して早期に対応することが可能となっています。

監査チームのメンバーは、社員ローテーション、業務の専門性・特殊性を考慮しながら、会計、監査等の知識および経験、各関与先が事業展開する業界に対する深い知見を有する人材によって構成されています。加えて、財務報告に関連する企業活動の複雑化に応じて、デロイトトーマツグループに多数擁しているIT、税務、年金数理計算、事業価値評価、固定資産評価、金融商品や不正専門家といった会計または監査以外の分野の専門知識を有する専門家を関与させています。

業務執行社員主導の徹底したリスクアプローチ

トーマツの会計監査は、デロイトメンバーファームで共通した監査アプローチマニュアルに準拠して遂行しています。この監査アプローチマニュアルに規定された監査アプローチは、リスク評価、監査計画の作成、作業の監督および査閲に業務執行社員が積極的に関与し監査チームを主導することで、有効かつ効率的な監査の実施を意図するものです。また、トーマツの監査チームは、会計基準や監査基準を形式的に当てはめて監査手続を行うのではなく、各関与先のビジネスを深く理解した上で、各関与先の直面するビジネスリスク、地域特性、規模、オペレーションやインダストリーの特性に応じ、最適な手続を立案し適用します。

全世界で一貫した高品質な業務提供を可能とする先進的テクノロジー

全世界で一貫して適用されているデロイトの監査手法・システム・専門的ナレッジは、各関与先固有の状況と複雑性に柔軟に対応できます。各関与先のグローバルビジネスと関連する内部統制の徹底的な理解に焦点を当てる会計監査の実施により、適切なリスク評価と各関与先への洞察の提供が可能となります。

Engagement Management System(EMS)

トーマツは、他法人に先駆けて90年代より全世界のデロイト共通の監査システムを使用してきました。現在使用している最新のEngagement Management System(EMS)は、以下の特徴により、監査チームの効果的・効率的な監査を強力に支援します。



*EMS 監査ステータス・ダッシュボード

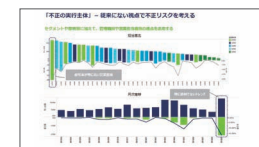
- ① グローバル監査における各関係会社との監査関連リスク情報の一元管理
- ② 各関与先の規模、インダストリーおよび重要なリスク領域に対応した最新ナレッジの利用
- ③ 監査の進捗に関する情報をリアルタイムに管理する監査ステータス・ダッシュボード*の利用

徹底したリスクアプローチのために活用するAudit Analytics(オーディット・アナリティクス)

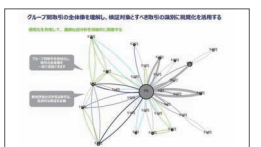
Audit Analyticsは、従来の監査では活用されていなかった関与先の財務・非財務データを様々な属性情報や外部データと組み合わせて分析・視覚化し、監査人の経験則では捉えられない相関や傾向・推移を識別することで、効率的かつ効果的な監査を実現するトーマツの先進的な手法です。

例えば以下のようなケースで、年間取引全量を一度に分析・視覚化し、リスク識別から検証対象取引の選定までを一貫して行うことにより、特異な傾向や例外を個別取引までブレイクダウンして識別・検証し、大多数の定型的な取引に対して効率的な手続を実施します。

- ① 管理職や営業担当者が不適切な処理を行った場合、どのような指標に他者と違った傾向や兆候が現れるか、データを活用して徹底的に検討し、実際の傾向や兆候に基づいてリスク領域を絞り込む
- ② 多額で複雑多岐にわたる連結グループ内の取引関係を視覚化し全体像を把握することで、企業を取り巻く内外の経営環境から本来計上が不可欠な取引や、計上されるべきではない取引を効率的に識別



Audit Analytics 分析結果例①



Audit Analytics 分析結果例②

継続的な会計監査の品質向上のための取り組み

トーマツは、継続的な会計監査の品質向上のための取り組みとして、定期的に関与先に対する「トーマツが提供する業務に関するアンケート調査」を実施しています。監査チームのLCSPは、各関与先からのアンケート回答結果から識別された課題に対しアクションプランを立案して、適時に各関与先にフィードバックを行っています。

加えて、一定規模以上の関与先の会計監査に従事する監査チームは、各関与先の事業環境やステークホルダーからの期待、各チームの置かれている実情等を踏まえ、「監査の品質」、「価値の提供」、「生産性」、および「人材育成」の4つの観点から目標を設定し、具体的に講じるべき諸施策を「監査チーム アクションプラン」として立案しています。「監査チーム アクションプラン」の実施状況を定期的に所管部署がモニタリングし、評価していくことで、監査チームにおける行動目標の実現を推進しています。

「資本市場の健全な発展」に応える グローバルなアドバイザー

コーポレートガバナンス・コードの基本原則のひとつである「適切な情報開示と透明性の確保」を支える監査は、ますますその重要性を増してきています。監査業務の提供を通じて資本市場の健全性を維持する機能の一翼を担ってきた監査法人において、アドバイザー事業本部のミッションは、監査業務で培った知見とリスク&ガバナンス領域での高い専門性を基礎に、クライアントの持続的成長を支える実効的なコーポレートガバナンスの実践を支援すること、ならびに、その知見を監査品質の向上に役立てることにあります。2014年10月に、東京、大阪、愛知、福岡の各拠点のプロフェッショナルが一体となってサービスを提供できる体制を整えるとともに、アジア パシフィックを中心とした各国デロイトへの人材派遣などを通じてグローバル展開するクライアントのサポート体制も強化しています。

複雑かつ高度化する課題に適切なチームアップでソリューションを提供

アドバイザーは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のための企業の自律的な取り組みに貢献するため、『事業の成長戦略を推進するための基盤を提供するファイナンス&アカウンティングに関連するアドバイザー』、『適切にリスクと向き合い、適切なリスクマネジメントの環境を作り上げるリスクに関連するアドバイザー』、『進化するITに技術と管理の両面からセキュリティを含め総合的に支援するテクノロジーに関連するアドバイザー』の3つサービスを軸としています。いずれの分野もデロイト トーマツ グループのコンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務のプロフェッショナルとの連携や、グローバルネットワークの活用が不可欠であり、複雑かつ高度化する一方の課題を解決するため、さらに強化していく方針です。

アドバイザーがサポートするリスク&ガバナンスサービスの領域



監査の品質向上・高度化に寄与しクライアントや社会の高い期待に応える

適切な監査を行うには、会計のみの知識によらず、関与先の企業に関連する幅広い知見が必須です。特に近年は、IPOニーズの増加、会計制度の変更による経営管理領域の拡大と複雑化、コンプライアンス意識の高まりなど、外部環境の変化が激しくかつ複雑化しています。そのような環境下、高品質の監査業務を提供し続けるには、各種ITトレンドの変化(サイバーセキュリティリスクの深刻化、クラウドなど新しいビジネス形態の発展)や、グローバルで複雑化する業務に関するガバナンス力を高めるための専門性(海外リスク情報、将来予測情報やシナリオ構築力)などの知識の研鑽が必要です。トーマツは、監査業務に必要な幅広い知識やリスク&ガバナンス領域での深い専門性を、アドバイザー事業本部が蓄積することにより、監査業務を担うプロフェッショナルが監査業務の品質の維持向上に集中できる体制を構築しています。加えて、監査業務のプロフェッショナルが広義の内部統制システムやサイバーセキュリティマネジメント、IFRS等のアドバイザー業務に従事する機会や、人材交流による育成の場を提供し、監査業務の高度化に寄与しています。一方で、企業の側に目を転じると、四半期決算や会計制度の複雑化にともない、負荷がますます増大しています。また、企業の上場維持コストが看過できない課題となっている昨今、監査業務は高度化のみならず効率化を図っていく必要があります。我々は、アドバイザー業務で培ったアナリティクスなどITの知見を活かすことは、情報の付加価値を上げると共にコスト軽減にも寄与すると考えています。今後も、クライアントとその利害関係者と対話を重ね、経営課題・社会課題を浮き彫りにし、その課題解決のために高品質なサービスを迅速に提供してまいります。

企業や社会から求められる「人材の育成」

高品質なプロフェッショナルサービスをいかに発揮するために

人材育成の基本理念

トーマツの人材育成の基本理念は、経済社会からの要請に真摯な姿勢で対応し、高品質なサービスを提供する、信頼性の高いプロフェッショナルを育成・輩出するというものです。この実現のために、一人ひとりの経験や能力、求められる専門性に応じた多様なカリキュラムを用いて、知識やスキルの獲得にとどまらず、健全な経済社会の発展に貢献しようという高い志をも兼ね備えたプロフェッショナルの育成に取り組んでいます。

— 多様な人材の活用を支える仕組み —

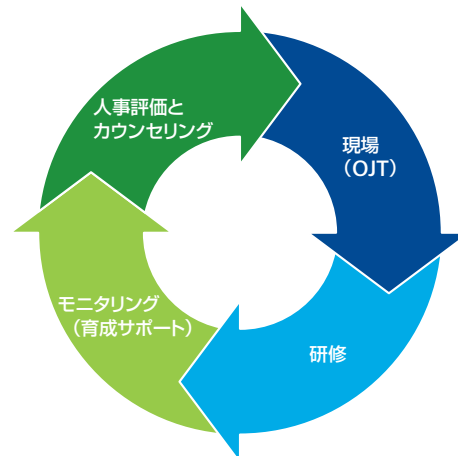
人事評価とカウンセリング

評価は、デロイト全体で用いられている基準に準拠した項目を用いて実施し、グローバルレベルで求められる資質・能力の共通化を心がけています。また、その結果を活用してカウンセリングを実施し、今後どのような点を伸ばすべきかについてフィードバックを行っています。

現場(OJT:On-the-Job Training)

人材育成の中心的な位置を占めるのが、実務を通じて行うOJTです。各人がプロフェッショナルとしての能力を遺憾なく発揮できるよう、必要な経験を積むための人材配置を心がけるとともに、実際の業務を行うなかで、上位者から下位者に対して、育成の基礎となる指導やアドバイスを積極的に行っています。

人材の育成とそのサイクル



個々の成長に必要な「人材育成」の4つの要素

モニタリング(育成サポート)

プロフェッショナルとしての成長をより促進するため、様々な取り組みが各現場で実施されています。先輩と後輩がペアとなり、後輩の業務状況の確認や今後の成長に資するアドバイスを中長期的に実施する「アセッサー制度」を導入し、各自の経験等のデータベース化を進める等、効果的な成長の支援に取り組んでいます。

研修

サービスに直接結びつく専門知識に関わる研修はもちろんのこと、クライアントとのコミュニケーションの向上に資するワークショップ形式の研修を積極的に展開、実施しています。目的に合わせ、体験型・参加型の研修や、e-Learning(研修受講システム)などの多様な研修形態により、個人のニーズに応える学習環境を提供しています。

経験を生かした人材の育成

トーマツは、多様化する社会やクライアントのニーズに応えるため、総合力を発揮できる組織を構築し、創造的で先見性に富んだサービスの提供を目指していますが、これら活動の基礎となるのは人材です。また、組織を生かす構成員一人ひとりが専門性を磨き、最善のサービスを提供することが私たちの責務であり、社会的使命であると考え、これらを担う人材の育成に重点的に取り組んでいます。

— 多様な人材を育成・輩出するプログラム —

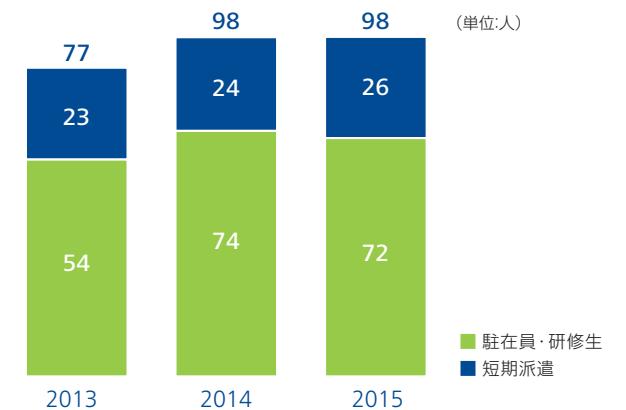
グローバル人材育成の強化

トーマツでは提供するサービスを通じて社会に貢献し、クライアントの持続的な成長を支えるため、グループのトッププライオリティの方針としてグローバル人材の育成に取り組んでいます。海外での実務経験を経てプロフェッショナルとしての自覚と責任感を持ち、人間的にも見識・信望が厚く、主体的に行動できる人材を育てるべく、多様な海外派遣プログラムを用意しています。

より戦略的な海外派遣へ

海外展開を拡大する企業が抱える課題に対応できる人材を安定的・継続的に育成・輩出することを目的に「海外駐在員制度(4年程度)」、「研修生制度(2年程度)」、「短期派遣制度(数カ月程度)」の各種プログラムを揃えています。プログラムでは、インダストリーやクライアントのニーズにフォーカスした戦略的な海外派遣も行われており、企業のビジネスの多様化に対応しています。デロイトと共同で開発した研修なども通し、世界各国のメンバーファームと人材の相互交流を行うことによってグローバルでのサービス提供を可能にする体制を整え、各国で得た知識やネットワーク・異文化での業務経験を日本の実務で生かすためのジョブアサインメントの仕組み作りも行っています。

海外派遣プログラムを通じた派遣者数の推移 (2015年12月現在)



*デロイト トーマツ グループでの数値
2013年～2015年の海外派遣者数(グループ合計)

— 中長期的なキャリア形成をサポートし、多様なキャリアを実現するための仕組み —

人材育成を視点とした人事異動

ビジネスドメインを超えた協働を実践

デロイトトーマツグループとして、優秀な人材の育成・活用を図るとともに、監査だけではなくコンサルティングやファイナンシャルアドバイザー、税務、法務といったビジネスを超えた協働を実践できる人材を育成するために、転勤、部門異動を積極的に進めています。また、幅広いニーズに加え、より専門的なニーズにも応えるため、インダストリーに精通した人材の育成も強化しています。

外部機関への貢献

広い世界で専門性を発揮

官公庁をはじめ様々な企業や各種団体に出身し、そのなかの一員として専門性を生かし貢献することは、人材育成の観点からも貴重な機会であるとともに、経済社会の持続的発展にも寄与することになると考えています。主な出身先には、事業会社（商社やメーカー等）、官公庁、金融機関、日本公認会計士協会（JICPA）、企業会計基準委員会（ASBJ）などがあります。

アセッサー制度

一人ひとりの適性・志向に合わせたキャリア形成が実現できるよう、スタッフ1年目から、経験豊富な先輩がサポート役のアセッサーとして付く制度があります。先輩と面談を行いながら、中長期的なキャリアへのアドバイスを受けることで自身の強みを伸ばし、個々の課題を解決しながら多様なキャリアを実現できるように、法人として一人ひとりの成長をサポートしています。

キャリア相談窓口

一人ひとりのキャリアや仕事に関する悩みを共有し、面談を通して課題の整理や目標の明確化の支援を行い、自身のキャリアについて自律的に考えチャレンジするためのサポートを行っています。

3年連続「キャリア大学—講座提供—（次世代育成支援）」を実施

2015年8月、監査法人や公認会計士の仕事に関心を持ってもらうため、多くの事業会社や官公庁と共に「キャリア大学」で1日限定の特別講義に講座を提供しました。開催日当日は全国から集まった約50名の大学1、2年生を対象にトーマツの講座を開き、模擬監査の実践的なケーススタディや現場での仕事の紹介、職員との交流会等を行いました。



参加した学生と職員の集合写真
（キャリア大学：企業が大学生に講座を提供する教育貢献の一環）

— 蓄積したナレッジを最大限に生かすための研修 —

集中して研修に取り組めるように独自の研修空間を東西に創出



（上）3面に投影スクリーンを設置したワークショップ型の研修ルーム
（左）東京受付
（右）京都ロビー

実践型の研修を重視

トーマツは「シニアスタッフまでは育てる」、「マネジャー以上は強み（得意分野）を伸ばす」という育成方針を掲げています。この方針のもと、現場にフォーカスしたナレッジが即座に生かされるような実践型の研修に注力しています。例えば、Face to Faceで行うワークショップ形式の研修では、現場をシミュレーションする現実的なテーマを掲げディスカッションを通じて学んでいく参加型の研修を展開しています。また、各職責に応じたプロフェッショナルとして必要な資質を身に着ける「昇格時研修」や、より高度なヒューマンスキルを身に着けるための「リーダーシップ研修」、「グローバル対応のための研修」等、多種多様な研修内容を整えています。研修は、プロフェッショナルとして現場での実践に役立つ知識を身に着けるためだけでなく、通常業務では交わることが少ないトーマツグループ内の様々な専門性を持つ人材のナレッジを共有する場としての機能も果たしています。

監査職研修体系概念図

| ランク別 | ベーススキル | プロフェッショナルスキル | | | | | | ソフトスキル | | | | | | | | |
|--------------|--|------------------|-------------------------|----------------|------|------|----|--------|------|-------------------------------|----------------|-------------------------|--------------------------|-----------|------|---------|
| パートナー | トーマツカルチャー ・コンプライアンス ・情報セキュリティ ・インサイダー ・レピュテーション ・独立性 ・職業倫理 | Audit Excellence | シミュレーション型 リスクアプローチ研修 | 報告書 監査基準委員会 | 内部統制 | 実証手続 | IT | 主任業務 | 不正対応 | 各種e-Learning スポット研修（春季・秋季） | 新任パートナー | コミュニケーション・ プレゼンテーション | リーダーシップ・ プロジェクトマネジメント | タイムマネジメント | 人材育成 | グローバル対応 |
| シニア マネジャー | | | | | | | | | | | 新任シニア マネジャー | | | | | |
| マネジャー | | | | | | | | | | | 新任 マネジャー | | | | | |
| シニア スタッフ | | | | | | | | | | | 新任シニア スタッフ | | | | | |
| スタッフ | | | | | | | | | | | | | | | | |

社内研修は、大きく3種類に分かれます（「ベーススキル」、「プロフェッショナルスキル」、「ソフトスキル」）。ランク別でいうと、スタッフ・シニアスタッフでは公認会計士（監査人）としてのプロフェッショナルスキルを中心に、また、マネジャー以上ではさらにソフトスキル（高度なヒューマンスキル等）を中心に習得機会を提供しています。

東日本大震災の復興支援は岩手・宮城・福島に 事務所を構える唯一の監査法人として当然の使命

復興支援室は、2012年9月に仙台事務所を拠点としてスタートし、現在、専任・準専任を含め約50名のメンバーで活動しています。被災地の「情報のハブ」として、被災地企業の方々の問題を把握し、解決手段の提供を行うことが復興支援室の使命です。

「伴走型」支援で経営者の力をつける

復興支援室を基軸にしたデロイト トーマツ グループの活動は、いくつかの分野に分かれています。そのひとつが「被災地企業に対する復興・再生支援」です。このなかでまず手がけたのが二重債務に苦しむ企業の支援です。工場が津波で流され、商売を再開するには、工場を再建しなければなりません。1年、2年と放っておくと事業が劣化してしまうため、早急な支援が必要でした。そこで被災企業の二重債務を解消し再生を後押しするため財務調査・事業計画の策定支援を行いました。再生の現場では、被災企業に何度も足を運び、経営者と向き合い、「真の課題は何か?」「今後の打ち手をどうすればいいのか?」を徹底的に議論します。経営者の心に寄り添う「伴走型」支援を徹底し、経営者が自ら考え抜くことで、将来にわたる自立的な経営力が高まるようにしています。



被災地での学びを全国の地域活性化・地方創生の取り組みに生かす

東北未来創造イニシアティブが運営する「人材育成道場」は、経済同友会が協力する前例なき地域リーダー育成支援の取り組みです。経済同友会のメンバー企業からの出向者が事務局となり、トーマツはスーパーバイザーおよびメンターとして、2013年4月の第1期気仙沼道場から関与しています。道場では「個別伴走型」メンタリングを行い、塾生に半年間、メンターとして寄り添います。塾生は自分自身と向き合い、悩み抜き、自身の志・使命に根ざした事業構想を練り上げ、卒業式では市長や市民の前で発表します。これまでの100名を超える卒業生は、地域の未来を開くリーダーとして互いに繋がり、熱心に活動しています。今後は、被災地での学びを生かし、全国の地域活性化・地方創生への取り組みに広げていきたいと考えます。



学生が主体となって取り組む復興支援活動をサポート

デロイト トーマツ グループでは、次世代の育成という観点から教育支援活動に注力しています。なぜデロイト トーマツ グループが教育支援活動に取り組むのか。それは、人材こそが最も重要な経営資源であるとの考えに基づいているからに他なりません。活動の一例として、ジュニア・アチーブメント日本の提供する経済教育プログラムへの講師派遣などを行っていますが、これらのプログラムを通して、子どもたちが社会のしくみや経済の働きを理解し、自身の進路選択や将来設計に寄与できると考えています。また、主に中・高校生を対象にオフィス見学や職場体験の機会を提供し、世の中にはどのような企業があり、そこで働く人たちはどのような仕事をしているのか、その中で監査法人や公認会計士はどのような役割を担っているのかを伝えています。東日本大震災の復興支援活動においても、気仙沼・首都圏の高校生による三陸食材を使ったレシピコンテスト「高校生リアスフードグランプリ」や、大学生のボランティアが中心となって運営するイベント、「三陸なう～あなたに今の三陸を好きになってほしいから～」など、学生が主体となって取り組む活動をサポートしています。次世代を担う彼らにこそ、社会課題に正面から向き合い、自らの力で新たな道を切り開く力を培って欲しい。実際、彼らは活動を通して、決して教室の中だけでは経験することのできない現実に直面することで、物事を多面的に捉え、未来を見据えた視座を得ていると実感しています。彼らのような若者たちがこれからの社会を牽引する力となると期待しています。



企業フィランソロピー大賞 特別賞「ハーティ・プロボノ賞」受賞

― 被災地の経営者の心に寄り添い、ノウハウやスキルを復興支援に生かす取り組み

トーマツは、第12回企業フィランソロピー大賞 特別賞「ハーティ・プロボノ賞」を受賞しました。企業フィランソロピー大賞は、日本フィランソロピー協会が2003年に創設したもので、社会の課題解決のために自社の経営資源を有効に生かし、経営理念に則った社会貢献活動を顕彰しています。例年、CSRのベストプラクティスとして受賞企業の社会貢献活動を讃えており、監査法人が同賞を受賞するのはトーマツが初めてです。被災地にもたらされる多種多様な資源（ヒト・モノ・カネ）を、トーマツが「情報のハブ」として被災地企業・自治体が求めている機能や資源のニーズに合わせて整理し、有機的に結び付け、迅速なサポートができるよう取り組んでいることなどが高く評価されました。



デロイト トーマツ グループのCSR活動 – CSR活動マップ –

デロイト トーマツ グループは総合プロフェッショナルファームとして、その経営理念に基づき社会の発展に貢献します。互いに個性を尊重しながら多様な人材が協働を通して自らの総合力を高めること、倫理的な行動を率先・奨励すること、学識と文化の発展を図ること、さらに環境への配慮を促進することにより貢献します。人材の育成、クライアントに対するサービスの提供、環境に配慮した法人運営の推進、地域・社会への貢献と参画を通してこれらを実現していきます。



- 大阪**
- 会計大学院学生 冬期インターンシップを開催
 - 大阪マラソンボランティア 7
 - 「大阪マラソン「クリーンUP」作戦」に参加
 - 「打ち水大作戦 in 淀屋橋」に参加 8
 - Hello! トーマツ職場見学



- 京都**
- 京都梅小路公園清掃活動 4



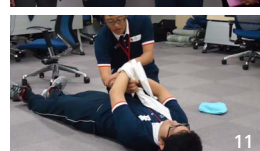
- 岡山**
- 桃太郎まつり花火大会 翌日の河川敷清掃に参加 5



- 福岡**
- SCP: 福岡県立福岡魁誠高等学校、福岡市立福岡高等学校 9
 - CAPS: 福岡雙葉高等学校、福岡市立照葉小学校教員対象授業
 - 福岡市立照葉小学校生徒商品企画発表会審査員、ジョブシャドウプログラム運営サポート (ジュニア・アチーブメント日本への協力)



- 博多湾沿岸における松原の整備・保全活動に参加(春・秋)
- ◆ NPO法人SOS子どもの村JAPANへの寄付



- Hello! トーマツ職場見学
- ◆ トーマツチャレンジド: ジョブコーチ 実践研修に協力 10
- ◆ 日本赤十字社減災セミナー開催 11

- 大分**
- 「みんなの森づくり市民植樹祭」に参加

- 鹿児島**
- 「おはら祭」の当日に清掃活動に参加

- 活動分類**
- 東日本大震災被災地復興支援
 - 専門性を生かした教育支援
 - 地域の環境保全活動
 - ◆ NGO・NPO等への支援
 - 環境に配慮したオフィス作り
 - 多様な働き方の支援
 - ◆ 障がい者雇用の推進
 - ◆ その他

*MESE: Management Economic Simulation Exercise
 SCP: Student Company Program
 CAPS: 帽子販売店の経営を通して意思決定を育成するプログラム (ジュニア・アチーブメント日本が提供するプログラム運営の協力)



- 広島**
- Hello! トーマツ職場見学 6

- 兵庫**
- SCP: 兵庫県立大学附属高等学校 (2015年度運営サポート、アジア大会アドバイザー)

- 和歌山**
- トーマツの森(和歌山県龍神村)

- 愛知**
- 名古屋駅地区街づくり協議会清掃活動に参加
 - 「あいち海上の森」で森林保全ボランティア活動
 - Hello! トーマツ職場見学

- 静岡**
- 安倍川の河川敷清掃活動に参加

- 北海道**
- 札幌ドーム周辺の清掃活動

- 岩手**
- 大船渡にて「スマホdeチェックラリー」を開催
 - 大船渡・陸前高田でアートによる前進! 東日本大震災「千人仏プロジェクト」絵画ワークショップ開催
 - 被災地における地域リーダーの育成(東北未来創造イニシアチブと連携した「人材育成道場」)

- 宮城**
- 南三陸町視察ツアー2015を開催 1
 - 気仙沼鹿折加工協同組合新事務所落成
 - 飲食店と生産者・水産加工事業者の橋渡し「三陸おせっ会」開催
 - 被災地企業に対する復興・再生支援、復興庁案件の業務受託 「被災地における先事例収集業務」「専門家等を活用した被災地における新規ビジネス等支援事業」
 - 被災地における地域リーダーの育成 (東北未来創造イニシアチブと連携した「人材育成道場」)
 - 被災自治体に対する復興・民営化支援 (URIによるコンストラクションマネジメント方式を活用した復興まちづくり事業支援、被災自治体の復興計画具現化支援、仙台空港民営化に関する検討調査、新地方公営企業会計基準への移行支援)
 - 被災地における地域リーダー育成(起業家・ベンチャー支援(ベンチャー道場、「Sendai for Startups! 2014/2015」 「全国StartupDay in 東北」))



- 福島**
- 「ふくしま復興塾」にメンターとして参画
 - 被災地における地域リーダー育成(「福島起業塾・起業相談会」)

- 群馬**
- MESE: 群馬県立高崎高等学校
 - 第69回群馬県植樹祭に参加
 - トーマツの森(群馬県高崎市吉井町)(春・秋) 2



- 千葉**
- MESE: 聖徳大学附属女子高等学校

- 東京**
- 被災地復興イベント 「三陸なう～あなたに今の三陸を好きになってほしいから～」開催
 - 大船渡津波伝承館プロジェクト「ボトルキャップ発送式典」開催
 - 新鮮な海産物を通じて三陸の今を伝える「三陸なうコレクション」開催
 - 「千人仏プロジェクト」第58回発表・内装作品展にて展示
 - オフィス見学・職場体験の受け入れ (茗溪学園高等学校、山口大学経済学部、金沢星陵大学経済学部、宮城県仙台第二高等学校、隣友学園女子中学校、茨城県立土浦第一高等学校、ラ・サール中学校、広島県立福山誠之館高等学校、豊島岡女子学園中学校) 3
 - 会計大学院学生 冬期インターンシップを開催
 - MESE: 東京電機大学高等学校
 - 日比谷公園の花壇植栽ボランティア

- ◆ 「プロボノ活動」(NPO・NGOの中期計画策定、ファンドレイジング戦略解決支援などを実施)
- Hello! トーマツ職場見学
- ◆ マッサージルーム(なごみ)の運営・募金活動
- ◆ トーマツチャレンジド: 千葉県特別支援学校からの実習生受け入れ
- ◆ ランチャイム手話講座
- ◆ 銀座ミツバチプロジェクト見学・講演会を開催
- ◆ 日本赤十字社減災セミナー開催



- 神奈川**
- MESE: 関東学院六浦中学校

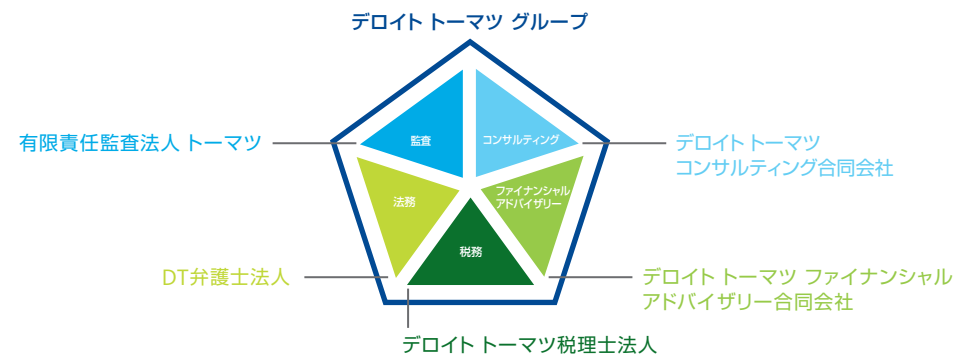
- 全国**
- 東日本大震災 被災遺児育英募金(中央共同募金会「東日本大震災 震災遺児支援事業」へ社員・職員からの寄付、法人寄付を実施)
 - 第12回企業フィランソノピー大賞「ハーティ・プロボノ賞」受賞
 - 「トーマツさくらプロジェクト」(宮城県石巻の訪問医療を受ける高齢者へ色紙を贈呈)
 - 古本寄付プロジェクト(宮城県南三陸町図書館への寄付)
 - WWFジャパン「暮らしと自然の復興プロジェクト」へ指定寄付
 - シンガポールと日本の高校生によるビジネスアイデアコンテストの運営サポート等(ジュニア・アチーブメント日本への協力)
 - eラーニングコース「目指せ! 日商簿記3級 仕訳にチャレンジ!!」を聴覚障がいを抱える生徒へ無償提供

- ◆ ネパール震災救援金 (国連WFP協会へ社員・職員からの寄付、法人寄付を実施)
- ◆ 使用済切手とペットボトルキャップの回収・寄贈
- ◆ FITチャリティ・ランへの参加
- ◆ シリア緊急支援(国連WFP協会への法人寄付)
- ◆ エボラ出血熱緊急支援(国連WFP協会への法人寄付)
- ◆ セカンドハーベストジャパン(2HJ)への寄贈
- ゴミの分別、リサイクルの取り組み
- 節電、CO2削減への取り組み
- ◆ デロイト トーマツ コンサルティング合同会社のグローバルコンパクト加盟

デロイト トーマツ グループについて

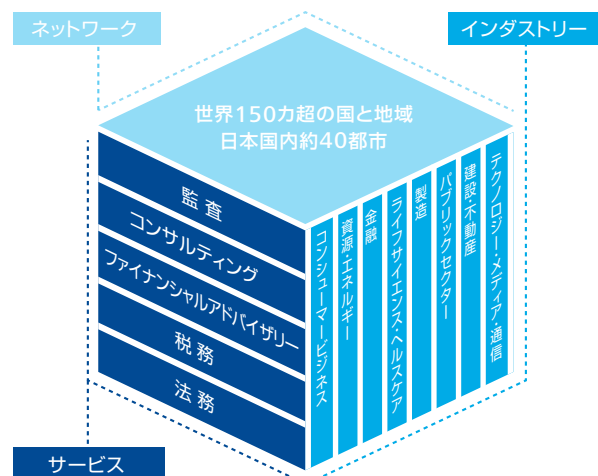
デロイト トーマツ グループ*は日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ 税理士法人およびDT弁護士法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約40都市に約8,500名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。

* デロイト トーマツ グループ一覧については、29ページをご覧ください。



<サービス>

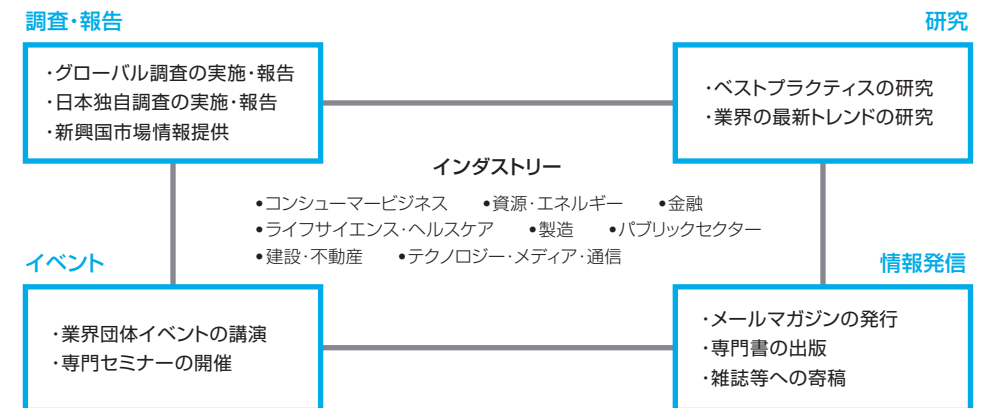
デロイト トーマツ グループは、「クライアントの期待を超える知的専門サービスを総合的に提供する」という経営理念のもと、各グループ会社の高い専門性とグループの総合力を生かした「サービス」、業種／業界に特化した深い知見を持つ「インダストリー」、デロイトのグローバルネットワークを生かし地域に密着した支援を行う「ネットワーク」の3つの側面から、課題解決に取り組むクライアントに対し、幅広いサービスを総合的に提供しています。



<インダストリー>

業界特性に精通したプロフェッショナルチームが支援します

クライアントのビジネスと業界特性に対する深い理解があつてこそ、良きアドバイザーとして、そのクライアントに適した価値あるサービスを、効果的かつ効率的に提供することができます。こうした認識のもと、デロイト トーマツ グループは、インダストリーごとに、監査・会計、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務の専門家が属するプロフェッショナル集団であるインダストリーグループを組織しています。各インダストリーが直面する固有の問題を熟知したプロフェッショナルチームが、知見を広く提供すると共に、クライアントに総合的な支援をしています。また、各インダストリーチームは、常に先進的なサービスを提供するため、デロイトのグローバルインダストリー活動と連携し、専門のインダストリーのホットピックはもちろん、そのインダストリーの将来的な課題やベストプラクティスの研究など、インダストリーにイノベーションを起こすようなテーマの研究を行い、日々研鑽を重ねています。



メガトレンドを解説するThought Leadership

各インダストリーごとにThought Leadershipと呼ばれるインダストリーにおけるメガトレンド、社会課題を解説した冊子を発行しています。

- | | |
|-----------------------|------------------------------------|
| ライフサイエンス・ヘルスケアインダストリー | 「ライフサイエンス・ヘルスケア業界未来予想図 2020年の姿とは?」 |
| 資源エネルギー・セクター | 「世界の電力セクターの将来 新たな機会と脅威への備え」 |
| Processセクター | 「金属業界のアナリティクス最前線～アナリティクスが現場を変える～」 |
| Autoセクター | 「自動車業界 新時代の幕開け「水素元年」からの挑戦」 |
| エレクトロニクスセクター | 「人工知能の脱神話化」 |

インダストリーの総合力を発揮するセミナー

インダストリーに精通した内外の講師とともに、業界最前線の視点で業界の未来や社会課題について協議しました。

デロイト トーマツ
金融ビジネスセミナー
2015年7月



デロイト トーマツ
ビジネスセミナー(DTBS)
2015年3月
Auto(自動車)セクターの
パネルディスカッション



<ネットワーク>

デロイト トーマツのネットワーク

デロイト トーマツ グループは、日本全国の主要都市約40カ所に拠点を展開し、地域密着でサービスを提供する一方、積極的に駐在員を各国に派遣し、世界150を超える国と地域に及ぶデロイトのネットワークとともに、クライアントの発展を支援しています。

日系企業のグローバル展開をサポートする Japanese Services Group (JSG)

日系企業サービスグループ(Japanese Services Group: JSG)は、デロイトのグローバル戦略に有機的に組み込まれた、日系企業の国際的発展を支援するための専門家集団です。JSGは、日本の文化や習慣を十分に理解する約1,000名超に及ぶ日本語バイリンガルのプロフェッショナルを海外約80都市に配し、そのグローバルネットワークによる豊富な経験と知識で、高品質で幅広いサービスを提供します。現地の制度やビジネス事情を熟知した各国デロイトとJSGのプロフェッショナルが、日本企業が海外で直面する様々な課題解決のためのサポートを行っています。

JSGのネットワーク

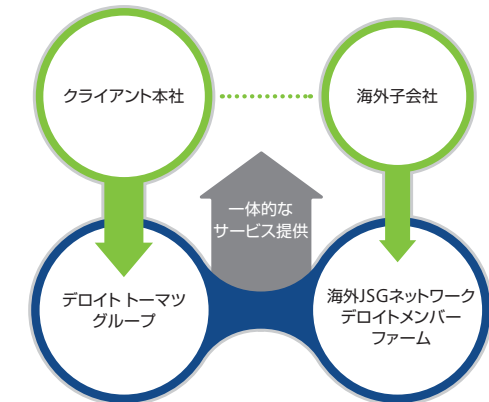
日本語によるサービスが可能な都市(2015年11月現在)

| EMEA*1 | アジア パシフィック | アメリカス |
|--------------|------------|-----------|
| ブリュッセル | ブリスベン | アトランタ |
| プラハ | メルボルン | シンシナティ |
| パリ | バース | シカゴ |
| デュッセルドルフ | シドニー | コロンバス |
| フランクフルト | オークランド | コスタメサ |
| ミュンヘン | 北京 | ダラス |
| ブダペスト*2 | 大連 | デトロイト |
| ダブリン | 広州 | ホノルル |
| ミラノ | 杭州 | ヒューストン |
| アムステルダム | 上海 | インディアナポリス |
| ウルジャウ*2 | 深圳 | カンザスシティ |
| モスクワ | 蘇州 | ロサンゼルス |
| サンクトペテルブルグ*2 | 天津 | マイアミ |
| パルセロナ | 香港 | ナッシュビル |
| マドリード | 台北 | |
| イスタンブール | 高雄 | |
| ロンドン | | |
| ドバイ*2 | | |
| ヨハネスブルグ | | |
| | ソウル | ニューヨーク |
| | バンガロール*2 | ポートランド |
| | チェンナイ | サンディエゴ |
| | ムンバイ | サンフランシスコ |
| | デリー | サンノゼ |
| | フノンベン*2 | シアトル |
| | ジャカルタ | ワシントンD.C. |
| | クアラルンプール | トロント |
| | グアム/ミクロネシア | バンクーバー |
| | ピエンチャン*2 | レオン |
| | ヤンゴン | メキシコシティ |
| | マニラ | ディファナ |
| | シンガポール | サンパウロ |
| | バンコク | サンティアゴ |
| | ハノイ | |
| | ホーチミンシティ | |

*1 EMEA:Europe, Middle East & Africa
*2 他の都市からのサービス提供

日本企業の海外事業展開を支援する専門家集団が現地と日本の双方から支援

JSGのグローバルネットワークの中核であるデロイト トーマツ グループは、約40年に及ぶ海外サービスの豊富な実績を有しています。デロイト トーマツ グループのパートナーの約30%は海外勤務経験を有しており、また現在も150名以上が海外で活動しています。これら海外ビジネスに精通した人材が世界中のデロイトの専門家とともに、日本企業のグローバルビジネスの成功のため、日本から強力な支援を行っています。



成長マーケットに対応するカントリーデスク

デロイト トーマツ グループでは、会計、監査、内部統制等それぞれの専門分野や、業界業種の特徴にフォーカスしたインダストリーにおけるグローバルサービス、そして成長が期待される地域に特化したカントリーデスクによるサポートを展開しています。中国、東南アジア、インド、中南米等での駐在経験者と海外ビジネスに精通した各専門分野のプロフェッショナルによるチームが、各国のデロイトおよびJSGと連携し、日本と海外の双方からクライアントのビジネスの成功に貢献します。

海外ネットワークの拡大

2015年は新たにミャンマー、ラオス、カンボジアがデロイトのメンバーファームに加わりました。高い経済成長率などを背景に、「アジア最後のフロンティア」と称されるミャンマーや、ラオス、カンボジアへの日本企業の進出は増加しています。ミャンマー駐在員を中心に、日本企業と同マーケットでの事業展開を力強くサポートして参ります。



デロイトミャンマーの駐在員(左)とManaging Director(右)

総合力を生かしたサービス

統合サービス(IMO) ～複合的な問題を専門家がー丸となって解決～

経営課題を、迅速かつ、適切に解決する企業が大きな成功を生む一方で、対応が遅れると機会を逃し競争から脱落してしまうのが、ビジネスの厳しさです。クライアントの経営課題解決に向けて、デロイトが全世界のメンバーファームの知見を集約した統合サービスがIMO(Integrated Market Offering: アイモ)です。世界中の様々な分野の専門家が、クライアントの成功を目的に、実績あるサービスを体系的に整理し、統合しています。デロイト トーマツ グループ各社も本活動の一翼を担っており、新たなIMOの開発に日々取り組むとともに、IMOのノウハウを活用し、価値を生み出す首尾一貫したサービスを提供しています。

6つの統合サービス

FT (Finance Transformation)

グローバル対応、人材育成、IT、税務等、財務・会計領域の革新を支援する

DA (Deloitte Analytics)

データ分析の能力を広範な専門領域で活用し、課題解決力を格段に高める

GRC (Governance Risk & Compliance)

リスクの発現を防ぎ、事業の価値を守り、育てるための体系的な経営管理手法を提供する

CM (Crisis Management)

各国のデロイトとの高度な連携を図りながら、予測不能かつ重大な有事対応への幅広いサポートを行う

M&A (Mergers & Acquisitions)

戦略作りから、買収後の統合まで、M&Aライフサイクルをフルカバーし、M&Aの成功と価値向上に貢献する

I&CP (Infrastructure & Capital Projects)

交通インフラ等の大規模プロジェクトに関し、各種調査、官民連携スキーム検討、インフラ資産のM&Aや運営権取引に関するファイナンシャルアドバイザーサービスを提供する

統合サービスとインダストリーアプローチの融合

国や産業界が直面する課題は、日々変化しています。デロイト トーマツ グループでは、常に先を見越して課題設定を行い、グループの持つ総合力を、社会全体や各業界の発展に活かすべく、新たな統合サービスを開発しています。

デロイト トーマツ グループのWebサイトでは、8インダストリー(コンシューマービジネス、資源・エネルギー、金融、ライフサイエンス・ヘルスケア、製造、パブリックセクター、建設・不動産、テクノロジー・メディア・通信)をさらにフォーカスし、26セクター別にさまざまなサービスや関連情報をクライアントのニーズに合わせて発信しています。

サイトURL:<http://www.deloitte.com/jp>

CFOプログラム To be the “Trusted Advisor”

ビジネスのグローバル化は加速度を増し、事業を取り巻く環境の不確実性が増す中で、CFOに求められる役割はますます高度化しています。CFOプログラムは、様々な課題に直面するCFOを支え、ファイナンス組織の能力向上に寄与することを目指すデロイト トーマツ グループによる包括的な取り組みです。われわれは、グローバルに展開するプロフェッショナルファームとして、先進的な知見やネットワークの場を提供します。

CFO VISION カンファレンス

CFOによるCFOのためのネットワークイベント

現役CFO同士の交流を深めていただくネットワークイベントです。昨今の経営環境や企業が抱える課題に関し、有識者ならびに現役CFOを交えて議論を行いつつ、各社CFO同士のネットワークを促します。
・年1回開催

2015年9月9日 第3回実施
「未来を築く企業の挑戦」

参加企業数:119社
参加者数:177名
(うち役員:97名)



Next CFO Society*

企業や業界を超えた次世代CFOコミュニティ

次世代CFO人材の育成と交流の促進を目的としたコミュニティです。年1回の合宿をメインとして、年間計3回のセミナーを実施。毎回、講師を招き、CFOが抱える課題に関してディスカッションを行います。
・年3回開催(オリエンテーションセッション、合宿、懇親会)

2015年3月12日 第14回開催
「動けCFO、会社が変わる」
中内 重郎氏(コチ・コンサルティング上海代表
株式会社イマジカ・ロボットホールディング 社外役員 他)



2015年1月20日 第13回開催
「CSV時代の経営管理のありかた」
水上 武彦氏(株式会社クリーンCSV / シェアード・バリュー・コンサルタント)
藤井 剛(デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社 執行役員)

*Next CFO Society は日本 CFO 協会と共催で運営しております

CFO Signals サーベイ

CFOにフォーカスした定期サーベイ

各国のCFOを対象に行う調査です。デロイト トーマツの各国メンバーファームと連携し、グローバルレベルでCFOの課題認識やその動向を分析します。
・年4回実施(予定)

2015年7月 第1回実施
Part1: グローバル共通設問(財政環境、業績の展望、等)
Part2: 日本固有設問(BEPS、アベノミクス、等)



「百家争鳴」

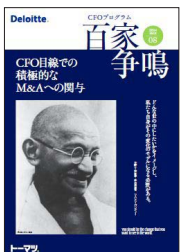
経営課題をCFO目線で読み解く情報誌

CFO向けの情報誌です。デロイト トーマツ グループ各分野の専門家が、企業の抱える様々な課題に対して、CFOがどのように考え、行動するべきか、考えのきっかけとなる示唆を提供しています。
・年4回発行(予定)

2015年 第9号
「企業価値を守るためのクライシスマネジメント」

2014年 Next CFO Society サマーカーン特別号
「ファイナンス組織力の向上に向けて」

2014年 第8号
「CFO目線での積極的なM&Aの関与」



CFOプログラムWebサイト:<http://www.deloitte.com/jp/cfo-program>

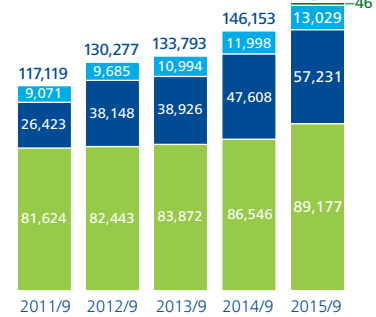
デロイト トーマツ グループ業績

監査法人の業績につきましては、金融商品取引法・会社法監査が2社、会社法監査が7社、労働組合監査が3社増加したものの、金融商品取引法監査が6社、その他の法定監査が2社、その他の任意監査が17社減少したことにより、前年度と比較して13社減少し、当年度末の被監査会社数は3,574社となりました。また、当年度における監査収入は666億58百万円(前期比0.6%増)となりました。非監査収入は、金融機関を中心としたIFRS導入支援業務やITセキュリティ業務が増加したこと等により、225億19百万円(前期比11.2%増)となりました。

なお、コンサルティング等グループ会社の業務収入合計は572億31百万円(前期比20.2%増)、デロイト トーマツ税理士法人の業務収入は130億29百万円(前期比8.6%増)、2015年4月設立のDT弁護士法人の業務収入は46百万円となりました。

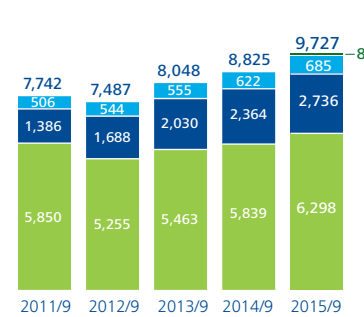
2015年9月末のグループ人員は、9,727人(902人増)となりました。法人別には、監査法人6,298人(グループ会社のパートナー兼務者を除く)、コンサルティング等グループ会社2,736人、税理士法人685人、弁護士法人8人です。

業務収入
(単位:百万円)



■ 監査法人
■ コンサルティング等グループ会社
■ 税理士法人
■ 弁護士法人

人員数推移
(単位:人)



■ 監査法人 *1
■ コンサルティング等グループ会社 *2
■ 税理士法人
■ 弁護士法人

(注) *1 監査法人人員数には、コンサルティング等グループ会社所属の社員を含まない。
*2 コンサルティング等グループ会社人員数には、監査法人所属の社員を含まない。

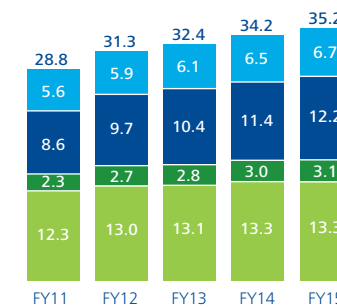
デロイトとは

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザーサービス、リスクマネジメント、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを提供しています。デロイトの約220,000名を超える人材は、“making an impact that matters”を自らの使命としています。

業務収入

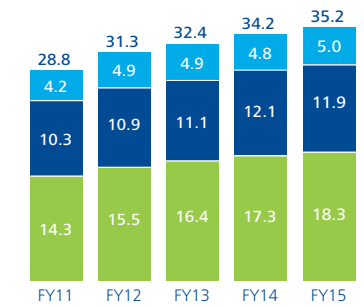
2015年5月末会計年度におけるメンバーファームの合計業務収入が352億米ドルとなり、当グローバルメンバーファームネットワークとして過去最高となりました。合計業務収入は現地通貨で7.6%伸び、2009年以来成長を続けています。

ビジネス別業務収入
(単位:10億米ドル)



■ 監査エンタープライズ
■ リスク
■ ファイナンシャル アドバイザリー
■ コンサルティング
■ 税務、法務

地域別業務収入
(単位:10億米ドル)



■ アメリカ地域
■ ヨーロッパ・中東・アフリカ地域
■ アジア パシフィック地域

デロイト トーマツ グループ一覧

有限責任監査法人 トーマツ
デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社
デロイト トーマツ 税理士法人
DT 弁護士法人
デロイト トーマツ リスクサービス株式会社
株式会社 トーマツ 審査評価機構
トーマツ ベンチャーサポート株式会社

トーマツ イノベーション株式会社
デロイト トーマツ アンカー・マネージメント株式会社
デロイト トーマツ PRS株式会社
トーマツ eラーニング ソリューションズ株式会社
アカウントティング アウトソーシング トーマツ株式会社
トーマツ チャレンジド株式会社(特例子会社*)
デロイト トーマツ 合同会社

*「障がい者の雇用の促進等に関する法律(障がい者雇用促進法)」に基づく